

◆◆◆◆◆  
文庫・記念館  
◆◆◆◆◆

## 琉球大学附属図書館 沖縄資料室の紹介

富田 千夏

### 琉球大学附属図書館の沿革と郷土資料収集

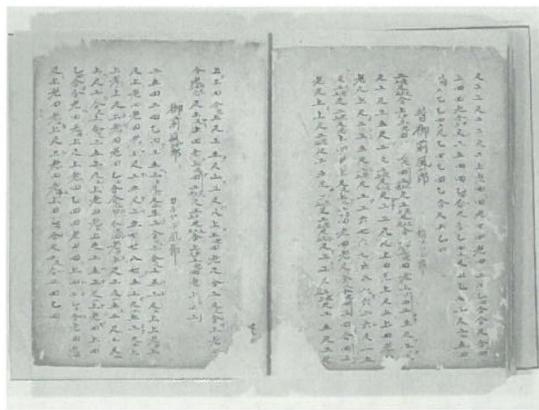
琉球大学附属図書館は、一九五〇年に首里城跡地に琉球大学が開学した際に、文化センターとして開館しました。一九五二年には、初代学長の志喜屋孝信の退官を機に新図書館の建設が計画され、一九五五年に落成しています。一九七二年の沖縄県の復帰に伴い、琉球大学は国に移管され、国立大学となりました。一九八一年には琉球大学の西原町へのキャンパス移転にともない、現在地に中央館新館を落成、現在に至っています。

琉球大学附属図書館では、開学当初より郷土資料の入手に力を入れてきました。伊波普猷文庫（後述）のほか、島袋源七文庫、ブル文庫、宮良殿内文庫などの貴重な蔵書を収集してきました。現在では、沖縄関係資料は五万点におよび、うち約二千点については貴重資料として所蔵しています。貴重資料以外の沖縄関係資料については、館内に沖縄資料室を設置し、一般図書とは別に配架しています。また、伊波普猷文庫等の貴重資料については貴重資料室に収蔵し、保存・管理をしています。

### 伊波普猷文庫について

伊波普猷は一八七六年に現在の那覇市に生まれました。一八九一年に沖縄県尋常中学校に入学しています。その後、第三高等

学校（現京都大学教養部）を経て、一九〇三年に東京帝国大学文学科（現東京大学文学部）に入学しました。当初は歴史学を志望していましたが、在学中に言語学に変更し、一九〇六年に同大学を卒業、一九〇九年には沖縄県立沖縄図書館の館長となっています。一九四七年に死去、今年は没後七〇年にあたります。一九一一年に『古琉球』を出版した他『沖縄女性史』（一九一九年）や『校訂おもしろさうし』（一九二五年）



屋嘉比工工四（沖縄県指定有形文化財）より  
かぎやで風節

等、多数の著書・論文があります。伊波の研究対象は沖縄の言語・文学・歴史・民俗など多岐にわたります。またその啓蒙思想的な活動もあわせ、総合的な沖縄研究の創始者として「沖縄学の父」と称され、現代にいたるまで多くの研究者に影響を与えています。

伊波の旧蔵資料一六点は、冬子夫人より一九五五年にロックフェラー財団の援助を受けて購入しました。これが当館所蔵の

伊波普猷文庫となりました。資料受け入れのいきさつについては、当時図書館長であった仲宗根政善による『石に刻む』（一九八三年刊、沖縄タイムス社発行）に詳しく記述されており、一九五八年に沖縄県の有形文化財に指定された『屋嘉比工工四』（\*）や、恩師田島利三郎より譲り受けた『おもしろさうし』の筆写本など、歴史・言語・文学等の多岐にわたる貴重な資料を有しています。

当館沖縄関係資料のデジタルコンテンツについて

伊波普猷文庫をはじめ、当館の貴重資料は他の資料とは別に保存・管理しています。一般の利用に供してはおりませんが、デジタル画像の公開に積極的に取り組んでおります。

沖縄資料室では、琉球・沖縄に関する古文獻資料を、研究資源としてだけではなく社会資源としてもより親しみやすく、利用しやすいコンテンツとして提供するために、「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」を構築し、提供しています。本デジタルアーカイブでは、古文書の解題や翻刻のほか、翻刻文の口語訳、一部の資料については英語訳も付しております。国内外どこからのアクセスも可能ですので、是非ご覧ください。

沖縄県中頭郡西原町字千原一番地  
電話 〇九八（八九五）八六九七

（同館職員）

\*屋嘉比朝寄が、中国の楽譜を参考に三線の記譜法（工工四）を考案し、口承されてきた琉球古典音楽を編集した楽譜